

2. 地域課題のまとめ

アンケート結果と自由意見、作業部会が出された課題・困りごと、策定委員会で出された課題等を対象別・分野別で区分したものが、地域課題のまとめです。

地域課題のまとめ（作業部会・アンケート・策定委員会での意見より）

対 象

困りごとの分野

	子ども	高齢者	障がい者	健康	地域・市民
サービス・福祉・相談	勤めている人で小学生の放課後の預け先に困っている人がいる。開設されていない地区がある。学童保育を兄弟2人で利用すると利用者負担が大きい。病気の時の対応が大変である。	高齢者の身体状況・生活自立度にあわせた取り組みを考えていかなければならない。サービスの内容・利用方法がわからない。家族がサービス利用に前向きでない。介護施設の入所待機者が多い。入所できる施設が少ない。経済的な理由でサービスを利用しない場合がある。施設利用の利用者負担が大きい。相談窓口の充実が必要だと思う。	グループホームが少ない、親亡き後の不安がある。工賃が少ない。福祉バスは県内のみしか利用できない。ヘルパーに専門性が求められる。男性ヘルパーが少ない。デイサービスなどの回数が増えたとよい、利用できる場所が増えたとよい。	セミナーやサロンの窓口が分かれている。健診受診率が低い。健診を受けることに抵抗感があるのではないかと。不登校が増えているが、相談場所がわからない。	窓口がわからない。
ふれ合い・交流・地域の支え合い	子どもを気軽に預けられるふれあいサロンのような場があるとよいのではないかと。	元気な高齢者もそうでない高齢者も一緒に楽しめる場があるとよい。支援が必要な人を地域で把握できていない。核家族化、家族形態の変化などにより高齢者と接する機会が減り、家族内でもコミュニケーション不足になっている。（同居でも別棟、別の食事等）ひとり暮らし高齢者が増えており、見守りが必要である。ひとり暮らしで親族等の協力がいないケースが増えている。	障がいのある人・ない人で意識の違いがあると思う。障がい者の行事には参加するが、地域の行事は参加しにくい。ボランティアする側がどのように接したらよいかわからない場合がある。啓発だけでなく、実際に過ごしたり、関わらないと理解できない。啓発だけでは何もならない。行事の際、地域のボランティアが参加してくれるが、それでも足りない場合がある。様々なボランティアがいるが、災害ボランティアなどは指示する人がいないと円滑に動けない。家に閉じこもりがちになっている、意欲が低下しているのではないかと。	ストレスやうつを持つ人への対応がわからない。大人のひきこもりが増えているのではないかと。	ボランティア活動をあてにする事業では継続性が保てないと思う。子ども・障がい者・高齢者などの各分野を横につなぐ共通する課題を解決するボランティアの柱を作ることが重要だと思う。市と社会福祉協議会とのつながりを一層深めて、協力してボランティア活動をしていくことが必要。ボランティアの自主性を育てることも重要だと思う。各分野のボランティアは若年層が少ない。参加を促進していくことが必要。小中学生への福祉教育も重要。市行政のボランティアへの支援をさらに推進してほしい。若い世代が地域活動にもっと参加してもらいたい。

対 象

困りごとの分野

	子ども	高齢者	障がい者	健康	地域・市民
情報・	授業参観や入院時、保育所の送迎など一時的に手伝ってくれる人がいない。	認知症への対応・認知症についての学び方がわからない。 サービスの申請方法など、もっと詳しく教えてほしい。 福祉の内容がわからない。	障がい者の求人情報がでて、実際に問合せがない。 視覚障がい者に、点訳・音訳された福祉関係の最新情報が入ってこない。	健康づくりの有資格者の情報がない、どのような活動をしているのかわからない。	福祉の内容がわからない。 聞きに行かないと情報がもらえない。
生活環境・安心・安全	市立病院で乳幼児を連れて待っている時が困る。 児童文化センターの駐車場の使い方が危ない。 子ども110番の家がどこに設置されているのかわからない。	高齢ドライバーの車の運転、自転車の運転で危ないと思うことが多い。 歩道に段差がある。 道路・歩道の整備をしてほしい。	敦賀駅の階段の昇り降りに時間がかかる。バリアフリーを進めてほしい。 災害時の避難などが不安。 道路整備が進んでいない。	グラウンドゴルフ、ゲートボールの施設が少ない。	
その他	親支援が必要。ホットタイムサービス、子育て総合支援センター、健康管理センターなどの相談窓口とネットワークを深めていくことが必要。 小学校高学年になると、外にでてスポーツする子と、家からでない子に二極化している。 虐待問題に地域がどのように関わればよいのかわからない。 夜間に子ども連れを見かける。睡眠時間が少なくなっている。 子どもの食生活が気になる。(孤食、外食等) 親も子もマナー不足ではないか。気がついていない。	市老人クラブで介護予防の取り組みを行っているが、参加してほしい人が参加してくれない。 困り事を抱える高齢者がひきこもりがちになっている。 老々介護・認々介護が増えている。 虐待問題が懸念される。 退職した高齢者、福祉的仕事を希望する高齢者を活かす場所がない。 市民一人ひとりの意識に働きかけてほしい。	障がいの程度にあう仕事がほしい 就労する障がい者と仕事先との間に入ってくれる人材・機関がない。	ラジオ体操は子どもと高齢者のふれあいの場にもなるので、進めていけるとよいと思う。 孤食が多い。 食生活について、朝食をとらない、片寄っている、孤食などがみられる。 女性の喫煙率が上昇傾向であったり、家庭内で子どもの喫煙を容認する親もいるのではないか。禁煙教育は継続して必要であり、分煙を徹底することも必要。	介護職などのスタッフが不足している。